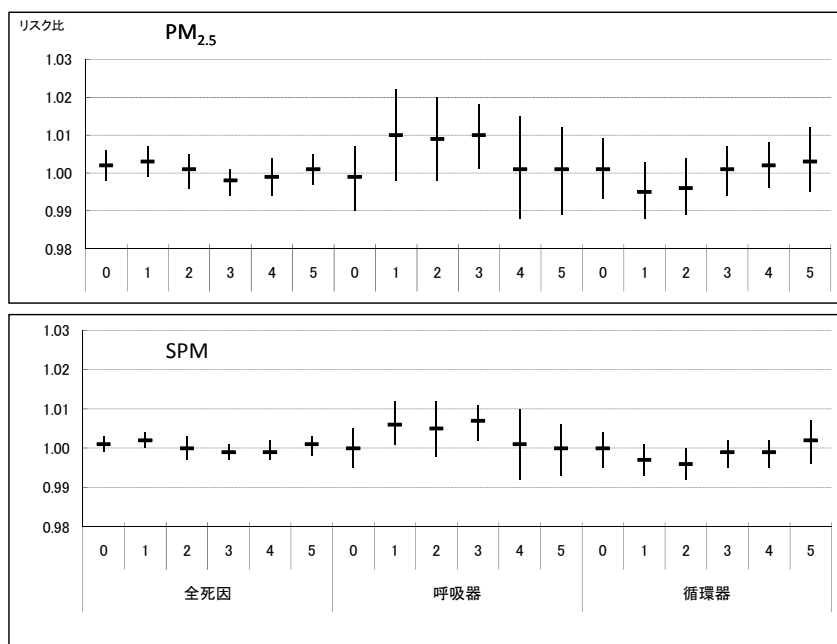


国内知見による粒子状物質（PM_{2.5}、SPM）と健康影響指標との関係について

1. 短期影響調査一日死亡との関連性に関する検討

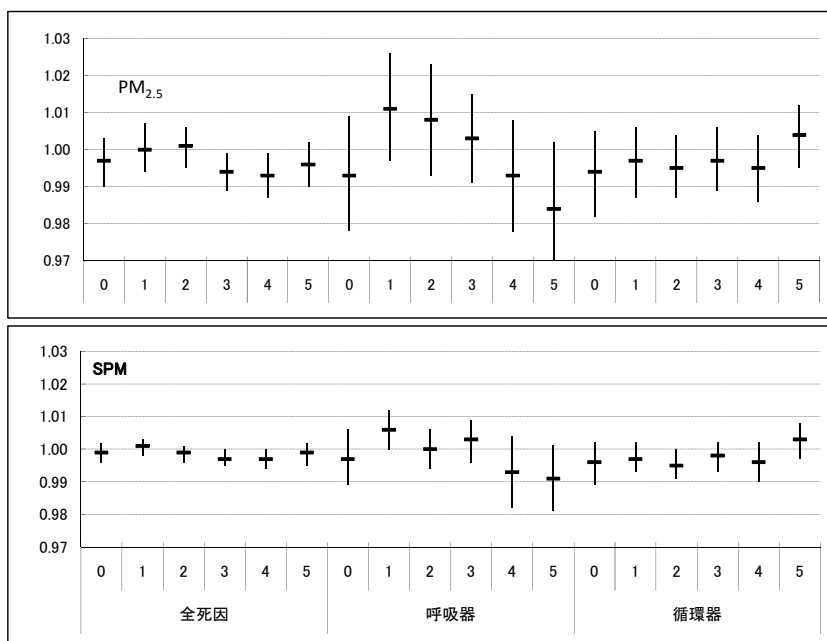
1) 気温、相対湿度を含めたモデル



*10 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 当たりのリスク

1

2) NO₂、O₃、気温、相対湿度を含めたモデル



*10 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 当たりのリスク

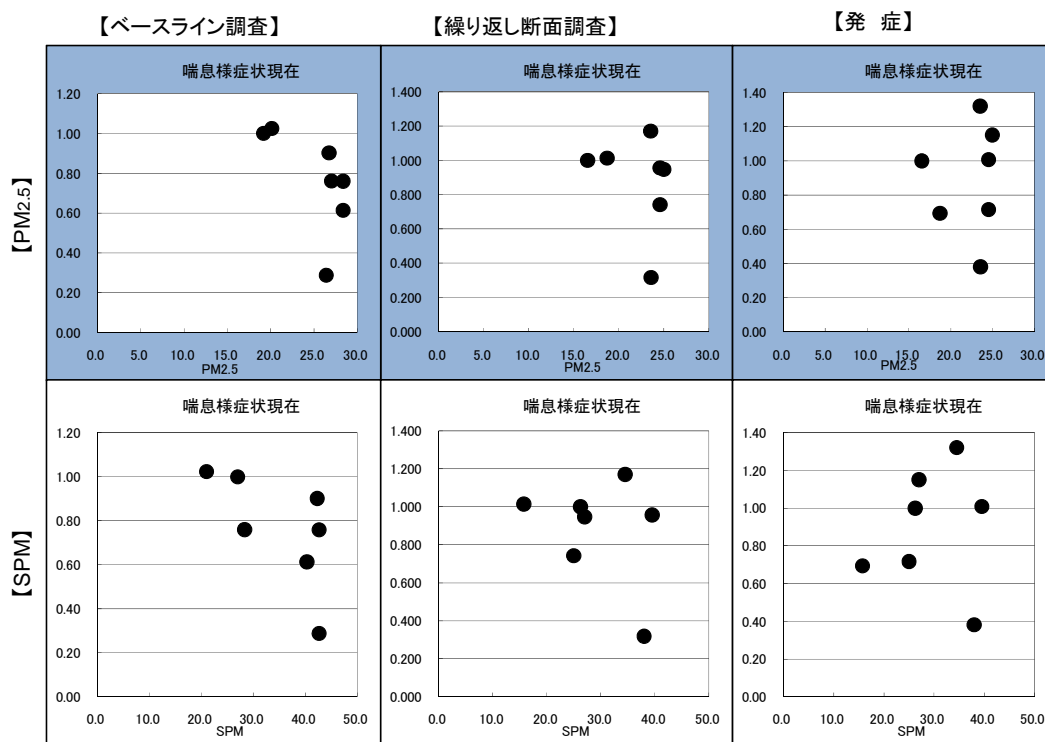
2

※全国 20 地域を対象に、平成 14～16 年の人口動態調査死亡データ及び大気 PM_{2.5}、SPM 等濃度測定データに基づき、解析モデルとして GAM 等を用いて、全死亡・呼吸器疾患・循環器疾患の死因別に、PM_{2.5} 単位濃度増加当たりの日死亡のリスクの増加量を推定したものの。

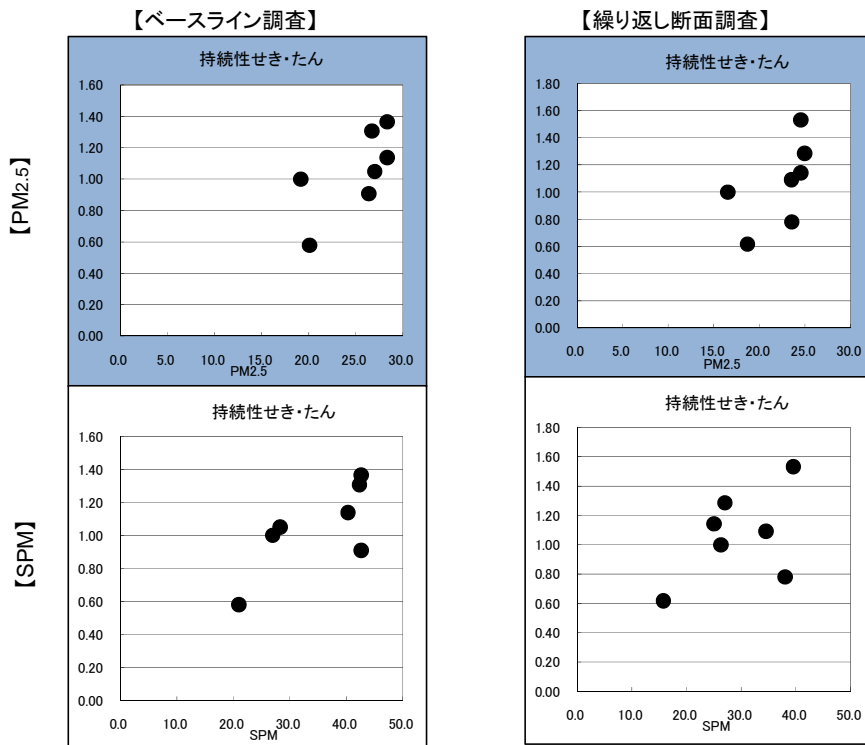
(出典：環境省 微小粒子状物質曝露影響調査報告書)

2. 長期影響調査 —呼吸器症状解析結果—

〈小児の喘息様症状〉



〈保護者の持続性せき・たん症状〉



※大気汚染度の異なる7地域で、平成13年10月から平成14年9月までの3歳時健康診査対象児全員とその保護者を対象とし、ベースライン調査を行った上で5年間の追跡調査を行い、その結果をもとに呼吸器症状のベースライン調査における有症状況の断面解析、繰り返し調査に基づく解析及び発症に基づく解析を行い、大気中PM_{2.5}及びSPM濃度との関連性について検討したもの。

(出典：環境省 微小粒子状物質曝露影響調査報告書)